

◇ 湿度は「熱」 ◇

本州では夏本番が近づき、いよいよクールビズを推奨する時期になりました。クールビズでは、室内温度の目安として 28 度を推奨しておりますが「28 度って暑い」と思われる方もおられると思います。

確かに 28 度の屋外を想像すると、暑くてジメジメして、不快な環境をイメージするのではないかと思います。

しかし室内温度 28 度では、意外と暑くないと思う人が多いのです。これには「湿度」が大きく関係してきます。

「湿度」というと湿気＝水分（水蒸気）のイメージですが、実は潜熱（せんねつ）といって、温度計には表れませんが 1 リットルあたり約 700W の熱を保有しております。この潜熱が温度環境に大きく影響しています。

◇ 体感温度 ◇

「体感温度」という言葉を耳にされた事があると思います。

『人が感じる暑さ寒さの感覚は気温によるだけでなく、湿度、風速、放射量およびこれらの変化の速度などにも関係し、これらを総合した温度感覚を表示したものを体感温度という』と定義されております。

簡単にいうと、今いる所で温度計の気温ではなく、実際に体が何度に感じているかという事です。同じ温度でも湿度が高い方が蒸し暑く、同じ温度でも空っ風が吹きつける方が寒いと感じる事です。

この体感温度には前述の定義の通り、気温や風速だけでなく「湿度（潜熱）」が大きく関わります。

潜熱は直接的な熱として温度計には表れませんが、体感温度として感じます。人の体からは水蒸気が蒸発し、気化熱で体温調整しています。

暑い夏には、湿度を下げると気温を下げなくとも気化熱で体温を奪ってくれます。周りの湿度が高い場合は、蒸発し難くなり、体温を奪い難くします。

ある資料によると、室温 28℃の時に湿度が 50%だと、体感温度は約 25 度になるというデータがあります。

冒頭のクールビズの推奨温度 28 度は、ちょっと暑くないかなと、思われた方も 25 度なら十分に涼しさを感じられるかと思えます。

湿度の持つ潜熱をとる事によって涼しさを感じているという訳です。

それでは、どのように湿度を下げるかというと、それはエアコンや除湿器を使

用する事で可能になります。

一般的な住宅では、それはエアコンや除湿器が設置されている部屋だけであり、その効果が家全体に及ぶ事はありません。

この効果を家全体に及ぼせるには、私達ファース・グループが供給するファース工法のような、高気密性能や防湿性能、空気の流れ等が大事な技術になってきます。その効果をシーズン中に渡って保ち続ける事です。

ファース本部のホームページには、その内訳が詳しく書かれてありますので、参考にしてください。

◇ おうち時間 ◇

今年は新型コロナウイルスの感染拡大で、今までに経験した事のない状況からスタートしました。その中で密閉、密集、密接のいわゆる 3 密を避けるため、ステイホーム、ソーシャルディスタンス、時差出勤やリモート会議、在宅勤務等、皆が協力し合いながら実践されています。

ワクチンや治療薬が出来るまでの数年は、このようなコロナと付き合っていく生活（生活変容）が続いていくのだと思われます。

最近ではステイホームや在宅勤務による、いわゆる「おうち時間」が増える中、家の環境に関する不満が多いというアンケート結果をよく目にします。

おうち時間が長い事による暑さ・寒さの不満（快適ではない環境の不満）、熱中症や光熱費の不安等、日常生活に直結した不安・不満の声が多いようです。

新築予定者からの「自宅新築に最も重視するポイントは何ですか」と、いうようなアンケートを見ると、デザイン、立地条件、価格、防災対策等の項目が多いようです。勿論、どれも大事な事ではありますが、新しい生活様式となるこれからは、大切な家族と何気ない、当たり前前の日常生活を幸せに快適に送るため本当に大切な事の優先順位を今一度、問い直す時期でもあります。

（著・研究開発室 村上 一人）

幸太の知恵袋

ペットボトルで部屋中を明るく

今回は災害に遭ったときに知っておくと便利な知恵を紹介します。停電の際、懐中電灯の光だけでは部屋中を明るく照らすことはできませんが、ペットボトルがあれば明るさの範囲を広げられます。懐中電灯を立てて置きその上に水の入ったペットボトルを乗せるだけ。懐中電灯がランタンに代わります。いざという時のために一度試してみたいかたがです。使用時はやけどなどに注意してくださいね。